

2008年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 面高度場では、東シベリアで正偏差となった。これはヨーロッパからの準定常ロスビー波の波束伝播に伴いリッジが発達・持続したことに対応している。また、中旬と下旬にトラフが発達したアラスカ湾では負偏差となった。対流圏下層の気温は、リッジに覆われた東シベリア、カナダ東部で明瞭な高温偏差となった。北半球のジェット気流は、リッジが持続した東シベリアで南北に分流した。東アジア上の亜熱帯ジェット軸は、中旬に35°N付近まで南下した。ヨーロッパから中央シベリアにかけては寒帯前線ジェットが明瞭で、同領域で高周波擾乱の活動が活発だった。

熱帯の対流活動は、インド洋西部、インドネシア付近や東部太平洋、大西洋でもかなり活発だった。一方、マレー半島から中部太平洋にかけては不活発だった。対流圏下層では、対流活動が不活発だったことに対応して、インドシナ半島、フィリピンから中部太平洋にかけて高気圧性循環偏差が明瞭だった。赤道季節内振動の活発な位相に対応する対流活動活発域の東進は、8月中旬まで不明瞭だった。8月下旬にはインド洋からインドネシア付近へ東進した。なお、アジアモ

ンスーン域における対流活動は、8月後半は不活発な状態が持続した。

南方振動指数 (SOI) は+1.0となった。

世界の天候

2008年8月の世界の月平均地上気温年差は、+0.26°Cで、1891年の統計開始以降、第7位の高温となった。

○東シベリアやヨーロッパ南東部からアフリカ北部で異常高温となった。

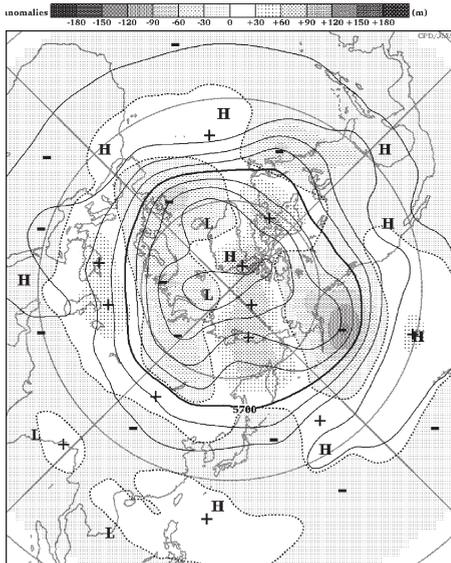
○ロシア西部からヨーロッパでは低気圧や前線の活動が平年より活発で異常多雨となった。

○米国南部からカリブ海諸国では2つのハリケーンを含む4つの熱帯低気圧の影響により異常多雨となった。

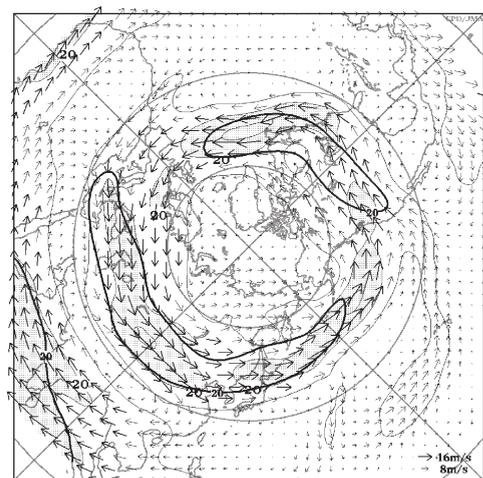
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>

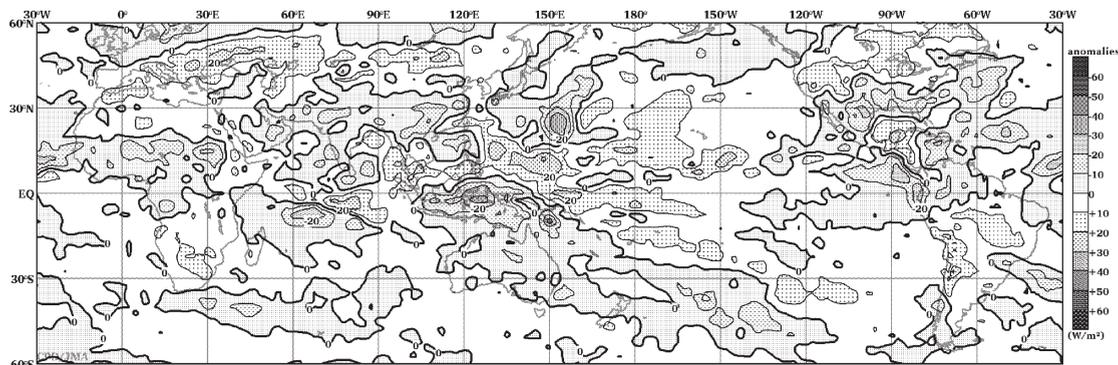


2008年8月の北半球月平均500 hPa 高度および年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は年偏差。年偏差は1979~2004年のデータから作成。

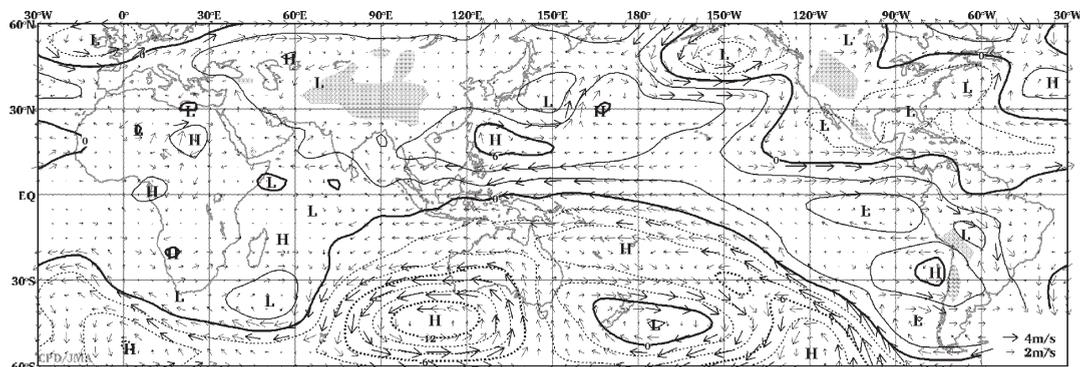


2008年8月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

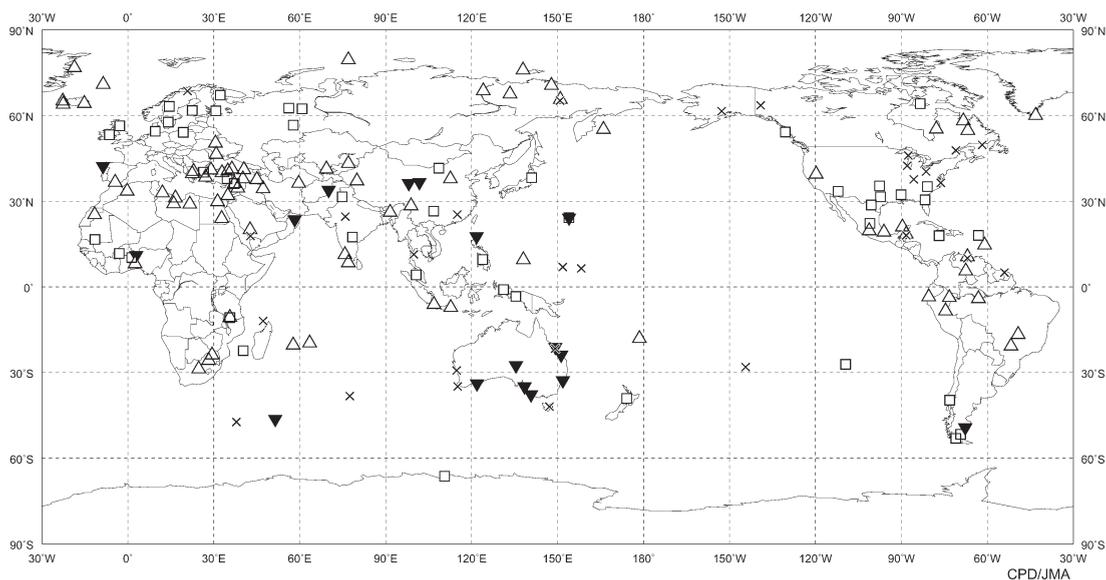
等値線間隔は10 m/s。陰影部は20 m/s以上。太実線で囲まれた領域は年々の20 m/s以上の領域を示す。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年8月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年8月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1979~2004年のデータから作成。



2008年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。